

プロフィール



名前	表原 拓也 (おもてはら たくや)
所属部署	東京医科大学 人体構造学分野 (解剖学)
職種	助教
この研究室に入った日	2017.4/1
出身地	兵庫県西宮市
趣味	研究, 写真

インタビュー

Q1 現在の研究室の仕事内容を教えてください。

研究室のメインは精巣の免疫系（精子はいかにして免疫学的に守られているか？）ですが、そんな中で私は学生時代（神戸大・農）からの発生の研究を続けさせてもらっています。動物の生殖器系が「なぜその形になるのか？」を比較形態学的な視点から明らかにしていくのが目標です。

形態には機能が宿ります。キーワードは「場の観察」, 「Whole bodyをみる視点」です。

Q2 この道に進んだきっかけは？

動物が好きで、元々は繁殖に関する研究に興味がありました。しかし、形態系の研究をしているうちに、**個体・器官・組織・細胞の形**（細胞の顔、なんて言うことも）を見ることのできる研究にいつの間にか引きこまれてしまいました。

また、生殖器系は子孫を残すために必須であるにもかかわらず（だからこそ？）、**性決定機構/遺伝子**をはじめとして、動物種間で異なる点が数多くあります。

「なぜその形なのか？」と「繁殖戦略」を考えていると楽しくなってきましたか？

Q3 形態系の仕事って面白い？

顕微鏡を覗いていると、不思議な細胞、構造を見つけることがあります。それがどういった意味を持つのか、想像するだけでも楽しいのですが、それを自分で確認・証明できる、というのがこの世界の一番ステキなところだと思います。

形態系の仕事は昔からあってやり尽くされた感がありますが、意外とまだまだ見落とし（？）のある気がしています。

Q4 大変なことは？

基本，研究ってうまくいかないもので，その間はずっときついですね…

そんな時は，柳町隆造先生のお言葉「若いときに、なかなか思い通りにならないことを沢山経験している人は後で強くなります。」を胸に頑張っています。

(ありがたいことに，順天堂大学での特別講演のお話がネットで読めます。ぜひ。)

あと，まだまだペーパーなので，教育業務との兼ね合いが難しいです。

Q5 大切にしている言葉

「無駄な経験なんてない。どこで何があるか分からない」 by 大学時代の恩師

「自分に厳しくやってる人は，人に優しい」 by 中・高時代の塾の恩師

「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」 by 高村光太郎

Q6 学生さんへのメッセージ

自分が「頑張れる」と思う道に進めることが一番だと思います。

その道が研究だった場合，どこかでお会いする日を楽しみにしております！

また，当研究室の研究に興味があれば，いつでもお気軽に，すぐにご連絡ください。

生命現象をあるがままに 観察する形態学

を基本として、下記のような「生殖器系の実験医学」に取り組んでいます。

● 生殖にとって脅威となる環境とは？

免疫システムの異常？環境化学物質？ストレス？

● そもそも生殖器系はどうやって作られる？

細胞や組織がどのように関わり合うのか？

・ 興味のある臓器・組織を自分の目でじっくり観察する

・ 抱いた疑問を自らの手で解決する

そこに面白さを見い出せそうな学生さん、コーヒーとともに歓迎します